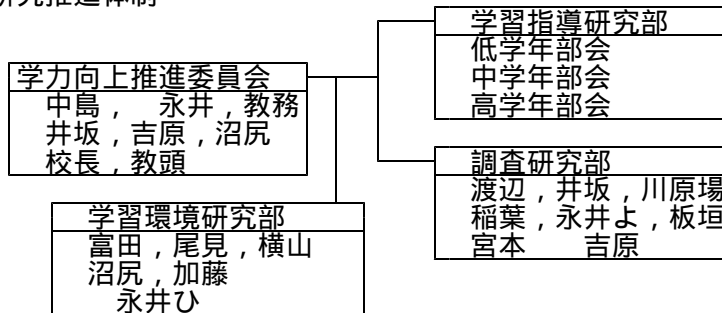


度	(2) 授業研究 ・各单元における展開過程の工夫，実践 ・補足的な学習や発展的な学習のための教材の工夫 (3) 調査研究 ・知識や技能を主とした学力の把握 ・学習に対する児童の情意面の把握 (4) その他（学習環境づくり） ・算数科教室の設置 ・朝自習時間の活用 ・家庭への啓発活動
---	--

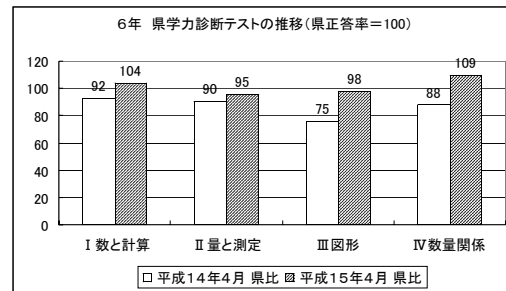
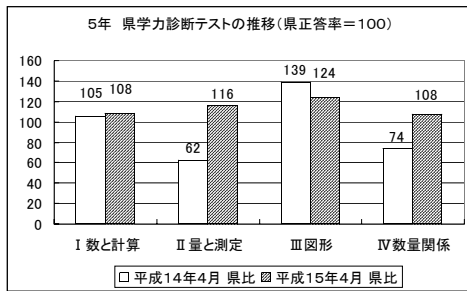
平成16年度	テーマ 基礎・基本の定着を図り，学ぶ意欲を育む指導法の工夫 ～算数科における個に応じた指導を通して～ 研究の見通し (1) 少人数指導やＴＴ等による個に応じた指導を充実させれば，基礎的 ・基本的内容を確実に身につけさせることができ，さらに意欲も高まるであろう。 (2) 個性や習熟に応じた多様な教材や適切な算数的活動を工夫すれば，自ら考え，解決していく力がつくであろう。 (3) 学習活動の過程や成果を的確に把握し，支援に生かす評価の工夫をしていけば，自ら学ぶ意欲が育まれるであろう。 研究内容・方法 (1) 理論研究 ・単元指導内容や児童の実態に応じた展開過程の在り方 ・学習過程や成果を支援に生かす評価の在り方 (2) 授業研究 ・各单元における展開過程の実践 ・学習過程や成果を支援に生かす評価の実践 (3) 調査研究 ・知識や技能を主とした学力の把握 ・学習に対する児童の情意面の把握 (4) その他（学習環境づくり） ・算数科教室の充実
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

- 1 研究成果
 - (1) 単元の基礎・基本としての内容を明確にすることにより，指導と評価の焦点化が図れるようになってきた。
 - (2) 少人数指導やＴＴ等において，個に応じる学習の展開を工夫することで，児童にとって「分かる授業」となってきた。
 - (3) 算数的活動の工夫によって学習意欲が高まり，課題を解決しようとする主体的な学習が展開できるようになってきた。
 - (4) 県「学力診断のためのテスト」の分析から〔2年間の推移〕
 県正答率を100として，平成14年4月，15年4月を領域別に比較することによって，学力面の向上を見る。



2 今後の課題

- (1) 「確かな学力」の向上を図るための効果的なT・Tと少人数指導の授業の在り方
- (2) 数学的コミュニケーション能力の育成
- (3) 補充的な学習と発展的な学習の教材開発

学力等把握のための学校としての取組

県「学力診断のためのテスト」の実施と前年度結果との比較分析(4月, 4~6年生)
 C R テストの実施と前年度結果との比較分析(2月 1~3年生)
 ベネッセ学習到達度検査の実施(2月 4~6年生)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 「授業研究会」 日時;平成15年 6月11日(水)
 平成15年 7月 8日(火)
 平成15年10月 3日(金)
 場所;本校
 対象;本校職員及び村内小中学校職員
- 「中間発表会」 日時;平成15年10月31日(金)
 公開授業 場所;本校
 対象;県南地区各小中学校及びフロンティア指定校
- 「中間報告HP作成」 <http://academic2.plala.or.jp/fuji-es/>
 「補充・発展学習の教材作成と実践」

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7~12学級
 13~18学級 19~24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無